

福祉

社会福祉施設数

老人福祉施設など少しずつ充実

児童福祉施設275		老人福祉施設44					障害者施設26			その他60		
保育所	228	助産施設	その他	老人ホーム	特別養護センター	老人福祉センター	その他	保護施設	精神通所者	身体障害者活動ホーム	障害者地域生活保護施設	その他
		12	35	19	14	11	15	11	13	7	40	

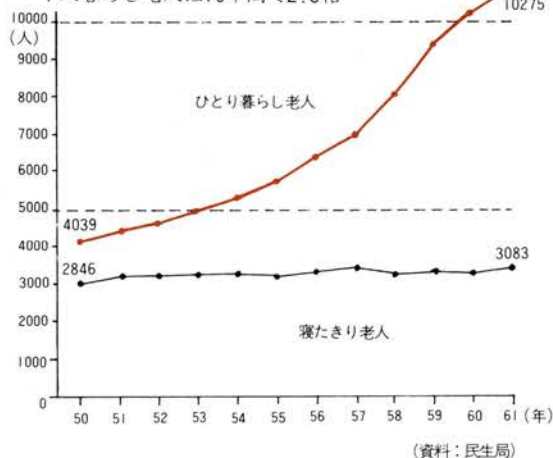
(昭和62年度末 資料：民生局)

最近5年間で最もふえた施設は特別養護老人ホームで11→19。定員は670人増。

昭和62年10月港北区に、総合リハビリテーション・センターがオープン。障害児・者の障害発見から社会復帰に至るまで総合的で一貫したリハビリテーションを行う体制が確立した。

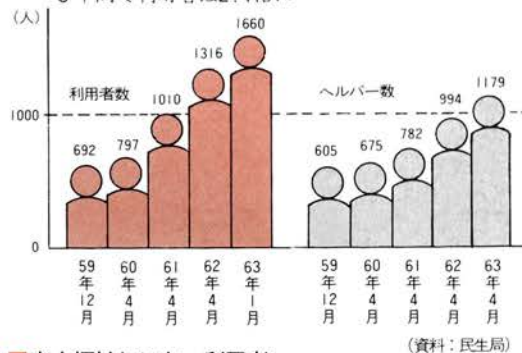
寝たきり老人・1人暮らし老人数

1人暮らし老人は10年間で2.5倍



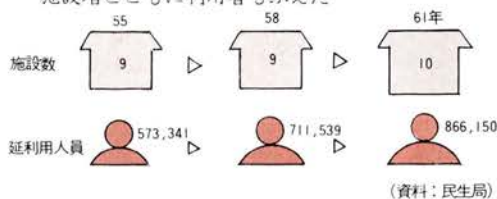
ホーム・ヘルプ協会の活動

3年間で利用者は2.4倍に



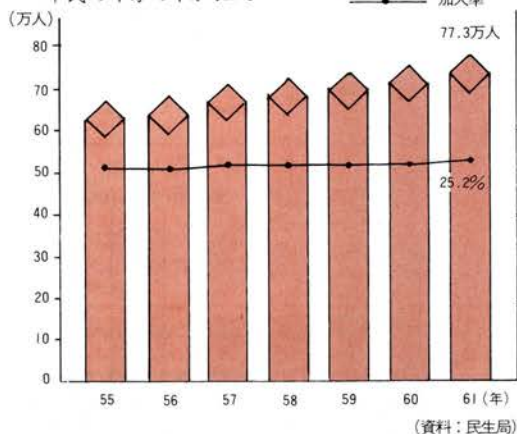
老人福祉センター利用者

施設増とともに利用者もふえた



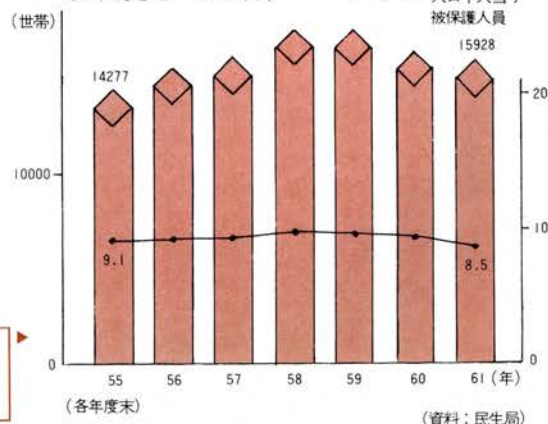
国民健康保険

市民の4分の1が加入



生活保護

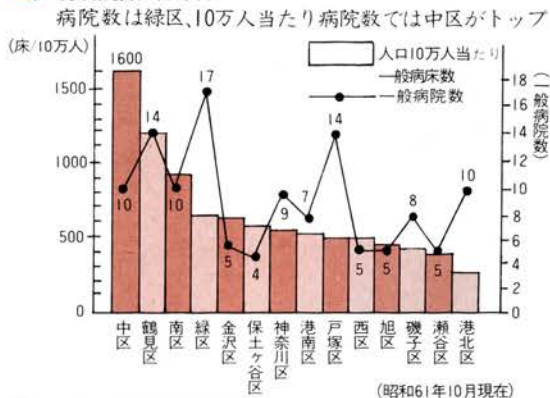
59年度をピークに下降



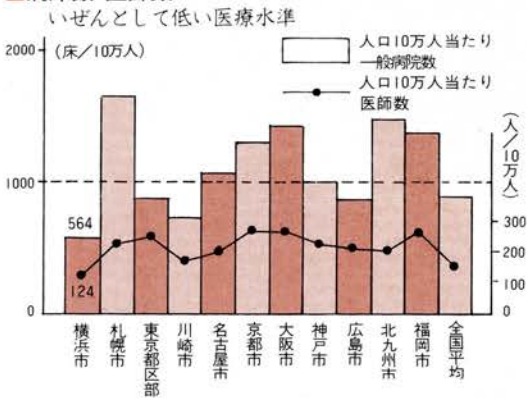
人口千人当たり被保護人員の全国平均は10.8人。11大都市比較では、広島市について低い。最も高いのは北九州市で32.2人。

医療

■ 区別病院数・病床数



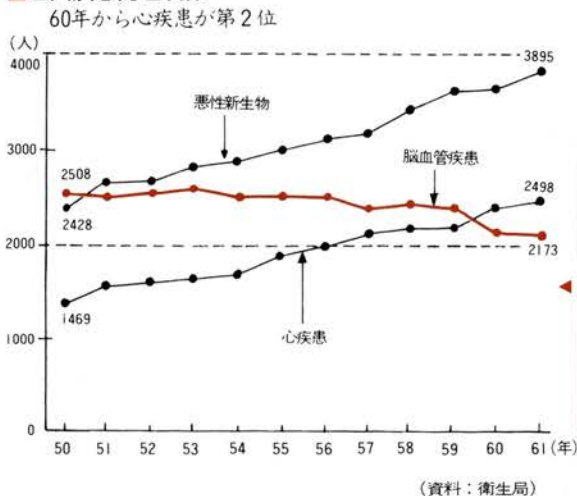
■ 病床数・医師数



58年に済生会横浜市南部病院(港南区)、62年に聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院(旭区)が開院し、現在港北区で横浜労災病院(仮称)を建設中(65年度開院予定)。

※一般病床数については昭和61年10月現在、医師数については昭和61年12月現在

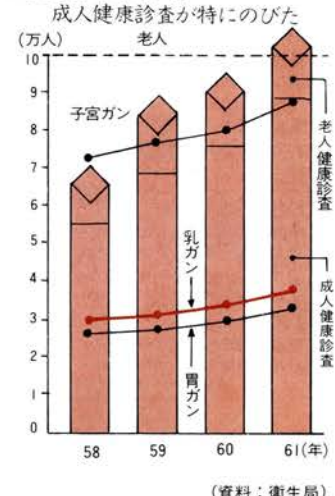
■ 三大疾患死亡者数



成人健康診査は、40歳～60歳が対象、老人健康診査は65歳以上が対象。胃がん検診は40歳以上、乳・子宮がん検診は30歳以上が対象。

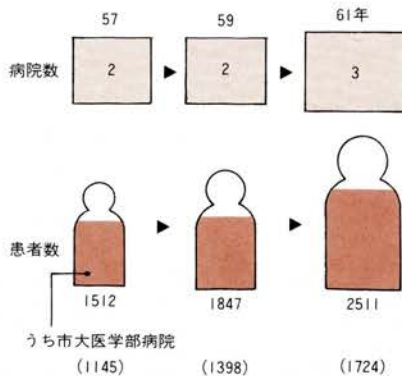
死因別に死亡総数に占める割合をみると、61年では「悪性新生物」が28%と全体の4分の1以上を占める。

■ 健康診査受診者



■ 第三次救急患者数

4年間で66%増と激増



救急医療体制は、第一次応需として、休日は各区の休日急患診療所、夜間は夜間急病センターで診療。第二次応需として、入院・手術等を要する患者は全市3ブロックの病院群輪番制により診療。第三次応需として、重篤患者は国制度の救命救急センター(62年からは市内3病院)と県制度の市立大学医学部病院で対応。

■ 休日急患診療所来所患者数

4年間で11%増

